

谷中七福神

1月24日（火） 晴れ

- ★ 1週間ほど前から『日本列島に強い寒波が来襲し、東京でも23日の夜半には雪が降るかもしれない』という予報が出ていた。そうすると路面が凍結して、坂道などでは転倒の恐れもあるので、散策の会は中止した方が良いのではないかと心配していた。しかし寒波が来るのが予想より遅く、24日はそれほど寒くもなく、青空の広がる絶好の散策日和となった。
- ★ 田端駅の改札を出て、駅前の広い通りを左へ8分程歩くと、右手に「谷中七福神 東覚寺」と書かれた看板が立っていて、そこを右折するとすぐそこに福祿寿を祀る東覚寺があった。東覚寺は真言宗豊山派の寺院で、本尊は不動明王である。お寺の前には明王殿があるが、ここでまず目を引くのが真っ赤な2体の仏像である。これは右が阿形、左が吽形の仁王像で、「自分の体の悪いところと同じところに赤紙を貼ると治る」という信仰により、参詣者が仁王像に赤紙を貼ったために、このような姿になったという。「赤紙仁王」と言われている。今では姿は見えないが、石像の金剛力士像で、江戸時代の寛永年間に建立されたという。明王殿の左奥に東覚寺の山門、本殿、庫裏などがある。七福神を拝見できるのは元日から1月10日までで、普段は見る事が出来ない



赤紙仁王



東覚寺

- ★ 元の大通りに戻り、200mほど行って左折すると静かな住宅街になる。そのあと鈴木医院の角を左折、更に千歳湯の前を右折して進むと、西日暮里駅前を通る道灌山通りが見えてくる。左手の高台には開成中学・高校の校舎が見えている。道灌山通りを横断して真っ直ぐ進むと左手の電柱に「禅宗 青雲寺参道」という案内が出ている。恵比寿様を祀る青雲寺で、臨済宗妙心寺派の寺院である。境内は狭いが、正面には立派な本堂があり、右手に墓地がある。本堂の横に滝沢馬琴の筆塚の碑や硯塚の碑がある。
- ★ 青雲寺の100mほど隣に布袋尊を祀る修性院がある。「しゅしょういん」と読み、日蓮宗の寺院である。道路に面した塀は桜色に塗られ、布袋尊の絵が描かれていて、道行く人を楽しませている。この一帯は江戸時代の中頃から「ひぐらしの里」と呼ばれ、江戸近郊の行楽地として賑わい、青雲寺や修性院は花見の場所として賑わったことから「花見の寺」とも呼ばれていたという。



青雲寺の本堂



修性院の塀に描かれた布袋尊

- ★ 青雲寺、修性院前の道を 400mほど行くと「夕やけだんだん」の階段の下に出た。右へ行くと「谷中ぎんざ」である。この辺はお土産店、食堂やカフェなどが立ち並び、観光客の姿も多い。階段を登って右折するとすぐ左手に朝倉彫塑館がある。ここは彫刻家・朝倉文夫のアトリエと住まいだった建物で、現在は彼の作品を展示する施設となっている。今回は時間の都合で建物の外観を見るだけとする。朝倉彫塑館の向かいに昭和初期の建物らしい古い店があって、その入口のガラス戸に「鍼力店」と書いてある。店には商品らしいものはなく、皆が「何を売っている店だろう？」と首をひねっていると、金子さんが「それはブリキ店と読むんだよ」教えて下さり、全員納得した。さすが「自称明治生まれ」の金子さんであった。



朝倉彫塑館

- ★ 朝倉彫塑館の先で左折して、細い路地を行くと突き当りは谷中霊園で、そこを左折して少し行き、朝倉彫塑館の裏門の近くに幸田露伴旧居があった。今は民家が建っている。幸田露伴旧居の近くから谷中霊園に入り、東へ進むと突き当りに天王寺がある。毘沙門天を祀る天台宗の寺院である。モダンな山門を入ると左手に釈迦如来座像があり、正面には奈良の十輪院を模した古風で優美な本堂がある。右手には沙羅双樹の木があり、平家物語の話題で話がはずんだ。



天王寺の釈迦如来像



本堂と沙羅双樹の木

- ★ 天王寺の前の道は谷中霊園のメインストリート「さくら通り」で、春には花見客で賑わう所である。さくら通りの中程に五重塔跡がある。ここには天王寺の五重塔が建っていたが、明和9年(1772)の火災で焼失した。寛政3年(1791)年に再建された五重塔は総檜造りで、高さ34mは関東で一番高い建物であった。幸田露伴はこの五重塔を眺めながら小説「五重塔」を書いたことだろう。この五重塔も昭和32年に放火により焼失して、現在は礎石が残るだけである。

- ★ 五重塔跡の先の十字路を右折し、谷中霊園を出て 150mほど行くと突き当りが寿老人を祀る長安寺である。門を入ると石畳の通路を挟んで右手が本堂、左手が墓地という小さな寺院である。ここには狩野芳崖のお墓がある。
ここで七福神巡りのルートを外れて、長安寺の横の狭い路地に入る。右手に観音寺があり、土と瓦を交互に積み重ねて作った土塀に屋根瓦を葺いた築地塀が大変美しく、文化庁の登録有形文化財に指定されている。



観音寺の築地塀



六角堂



岡倉天心坐像

- ★ 観音寺の裏は「蛸坂」という急な坂で、その坂を降りきったところに岡倉天心記念公園がある。近代美術の先駆者・岡倉天心の旧居跡で、園内の一面に六角堂があり、小平出身の彫刻家・平櫛田中作による天心坐像が安置されている。

- ★ 公園前の道を南へ 200mほど歩くと広いバス通りに出た。左折して^{さんさきざか}三崎坂を登って行くと左手に全生庵という大きなお寺があった。山岡鉄舟が建立した寺で、鉄舟の墓の他、落語家の三遊亭円朝、作曲家・弘田龍太郎の墓がある。



全生庵の本堂



円朝の墓碑



護国院

- ★ 三崎坂の途中で右折し、言問通りの谷中六丁目の交差点を横断するとやがて正面に大黒天を祀る護国院が見えてくる。朝倉彫塑館から護国院辺りまでは、寛永寺の創建に伴い、江戸幕府の政策により神田付近から多くの寺院が移転してきたため、寺町が形成された。民家の数より寺院の数の方が多いのではないかと思われるほどである。これほど多くのお寺に、それぞれ檀家がいたのだろうか？ 経済的に成り立っていたのだろうか？と心配になる。特に最近はお寺の檀家が減っているというので気になるところである。
護国院は天台宗の寺院で、寛永寺最初の子院である。天海僧正の弟子・生順の開基、天海により一堂が建立され、釈迦堂と名付けられたのが始まりである。護国院の住所は台東区谷中ではなく、台東区上野公園である。

- ★ 護国院を出て左へ行くと緩やかな下り坂で、都立上野高校がある。ちょうど下校時間で高校生が校門から続々と出てきた。更に清水坂という急な下り坂を降りると平坦な道に出る。こ

の道の左手は上野動物園でパンダの写真などが飾ってある。少し行くと右手に水月ホテル鷗外荘がある。ここは森鷗外の旧居跡で、現在はホテルになっている。動物園の本園と分園を結ぶモノレールの下を抜けると右手に七番目の七福神・弁財天を祀る不忍池弁天堂が見えてきた。ここは多くの参拝客や観光客で賑わっていた。



- ★ どの寺院も七福神の御開帳は終わっていて、その姿は拝むことは出来なかったが、多分ご利益は頂いてきたものと思う。今年 1 年がいい年であることを願うものである。弁財天の前で解散した。時間は午後 4 時を回っていた。この頃から気温が急に下がり始め、猛烈な風が吹き始めた。路上に止めてあった自転車が次々と倒れ、帽子を飛ばされる人もいた。恒例により上野広小路辺りの居酒屋に入り、楽しく飲み、語り、笑ってひとときを過ごした。



「夕やけだんだん」にて 馬道 哲さん撮影

今回は4人の俳人から俳句を頂きました。

谷中路は 寺軒連ね 春浅く

十四人 七福神で 二万五歩

金子正男

松過ぎの 七福神は 十日まで

冬夕焼 谷中銀座の 階段で

枯れ葦の 池に弁天 御堂かな

桑田青三

冬富士の 見えぬだんだん 坂谷中

冬ざるる 五重の塔の 礎石のみ

突風に 帽子飛ばさる 寒波かな

志賀 勉

遠のいて 点景となる 冬椿

老梅に 紅一点あり 寛永寺

雪雲へ 鴉飛ぶなり 谷中墓地

流牧

参加者 馬道 哲、金子正男、桑田制三、古賀良郎、小島恕雄、志賀 勉、中島克三、
滑志田隆、原田一彦、牧野昭夫、水野 聰夫妻、山崎 直、白井静江 以上14名

写真と文 小島恕雄